



精神疾患を有する方の転倒予防とフィジカルヘルスに関する研究 医療従事者や生活者のメンタルヘルスに関する研究

保健福祉学部 看護学科
助手 麻生 浩司 (あそう こうじ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3410号室
Tel 0848-60-1188
E-mail kaso@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 精神看護学

キーワード： メンタルヘルス, 表情認知, 情動知能, 精神科リハビリテーション, 認知機能障害, フィジカルヘルス, 転倒・転落, 姿勢制御

● 現在の研究について

精神科病院にて、10年以上の臨床経験があります。これまでの臨床経験をもとにして、以下の研究に取り組んでいます。

1. 精神科病床における転倒・転落の予防に向けた評価と介入方法の開発

転倒は、外傷、骨折、死亡につながります。近年、精神科病床における入院患者のバランス能力の低下が明らかとなっています。現在、転倒とバランス能力の関連を検討するために、床反力計 (force plate) を用いて調査をしています。さらに、バランスの制御に関連する視覚機能、固有受容器、前庭器官といった感覚器や身体組成、転倒恐怖感についても調査し、転倒予防への評価や介入方法の開発をしています。

2. 精神科看護師のメンタルヘルスに関する研究

看護師は、患者との相互関係のなかで自分自身をコミュニケーションの道具として活用していますが、他者から多様な感情を受けることがあります。なかでも、精神科看護師は対象の特性から鮮明でネガティブな感情 (怒り、悲しみなど) を受ける機会が多いと思われます。他者の状態を理解するために、表情から感情を読みとる能力 (表情認知能力) と、表情認知した後に看護師自身の感情をコントロールする能力 (情動知能) は援助関係に必要となります。

そのため、精神科看護師の表情認知能力と情

動知能の特性と、それらの関係性について調査を行っています。

3. 精神疾患を有する方のフィジカルヘルスに関する研究

精神疾患を有する方は、身体疾患 (心血管系疾患、がん、メタボリックシンドロームなど) の高い保有率が課題となっております。地域移行が加速し、高齢化するなかで、地域でのサポート体制や当事者の方々の身体的健康の管理や、どのようにご自身の身体的健康を捉えられているのか調査を進めています。また、当事者と医療との接点となる精神科訪問看護のスタッフの方の視点についても研究しています。

● 今後進めていきたい研究について

1. 転倒予防に関する研究
2. メンタルヘルスに関する研究
3. 病院や地域でのフィジカルヘルスのサポート体制に関する研究
4. 精神疾患に伴う認知機能障害を考慮した看護ケアの研究

● 地域・社会と連携して進めたい内容

1. 臨床や地域での転倒予防やフィジカルヘルスのサポートについて一緒に考えさせていただければと思います。
2. 地域生活や職場でのメンタルヘルスについての取り組みなど、連携させていただければと思います。

● これまでの連携実績